

2024 年 5 月 31 日

The Emerging Markets Weekly

米金利が騰勢を強めた中で大半が軟調な動き

新興国市場:先週末 24 日のアジア時間の新興国通貨は米利下げ期待の後退を受けて軟調。KRW や THB が下落した。欧米時間、米 5 月ミシガン大学消費者マインド(確報)でインフレ期待が下方修正されたことを背景に米金利が低下し、ドルも軟化するも、新興国通貨への影響は限定的。BRL が軟調。週初 27 日、アジア時間はドルの下落を受けて新興国通貨は総じて堅調。KRW と MYR が買われた。欧米時間、英国と米国が休場で商い薄の中で、商品市況の堅調が資源国通貨の支えに。RUB や ZAR が買い優勢。28 日のアジア時間はドル売りの流れを受けて小幅に上昇した。KRW や PHP が堅調。欧米時間、米 5 月消費者信頼感指数の市場予想上振れとカシカリ・ミネアポリス連銀総裁の発言も相まって米金利上昇・ドル高となった。ZAR と RUB が堅調な一方、MXN は下落。29 日のアジア時間は前日からの米金利上昇が続き、新興国通貨は下落。PHP が大幅に値を下げた。欧米時間、ベージュブックはややハト派的と捉えられるも、相場への影響は限定的。ドルが堅調を維持し、新興国通貨は下押された。MXN と RUB は前日比▲1.0%超下落した。30 日のアジア時間は前日の流れが継続し、KRW が下げを主導。欧米時間、米 1~3 月期実質 GDP 成長率の個人消費が速報値から下方修正されたことなどを背景にドルが売られたが、新興国通貨の反応はまちまち。ZAR は南アフリカの総選挙の結果の不透明感が重しとなり、前日比▲1.9%値を下げた。

アジア:24 日発表のマレーシア 4 月消費者物価指数(CPI)は前年比+1.8%と市場予想を下回った。27 日、中国で住宅購入規制が最も厳しい上海市は大幅な住宅購入緩和政策を発表。住宅ローン要件の大幅緩和などが対策としてあげられた。タイ政府は 28 日、観光客、リモートワーカーなどに対するビザの滞在期間延長と、退職者に対するビザ要件の緩和を承認したことを発表した。60 日間の滞在許可証の対象が現在の 57 か国から 93 か国に増えるほか、到着時のビザ取得が可能となる対象国も現在の 19 か国から 31 か国に拡大される。同日、タイ政府は総額 5000 億バーツ規模の経済対策の財源として 2024 年度予算を 1220 億バーツ増額する計画を閣議で承認した。セター首相は 2024 年の経済成長率は+2.5%を超える可能性があるなどと述べた。上海市の住宅購入規制緩和に続き、深セン市と広州市も 28 日に類似した政策を発表。大手格付け会社は 29 日にインド国債の格付け見通しを「安定的」から「ポジティブ」に引き上げた。

中東欧・アフリカ:29 日に行われた南アフリカの総選挙の開票が開始され、与党のアフリカ民族会議(ANC)が大きく議席を減らす見込みとの報道が ZAR の重しとなった。南アフリカ準備銀行(SARB、中央銀行)は 30 日に政策金利を全会一致で 8.25%に据え置くことを決定。据え置きは 6 会合連続。ハニヤホ総裁は会見で「インフレリスクは現時点ではほぼ均衡しているとみているが、インフレ期待が高いため、期待を再び抑制するには可及的速やかなインフレ目標実現が求められる」と述べた。

金融市場部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 将行
masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

市場概観(韓国)

5 月金融通貨委員会～金融政策の不透明性の高まりに言及

金融市場部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

韓国銀行(中央銀行、BOK)は 23 日、金融通貨委員会を開催し、政策金利(7 日物レポ金利)を委員会メンバーの全会一致で 3.50%に据え置くことを決定した(図表 1)。据え置きは昨年 2 月に利上げを停止してから 11 会合連続での決定となった。なお、ブルームバーグの事前予想でも現状維持が優勢だった。

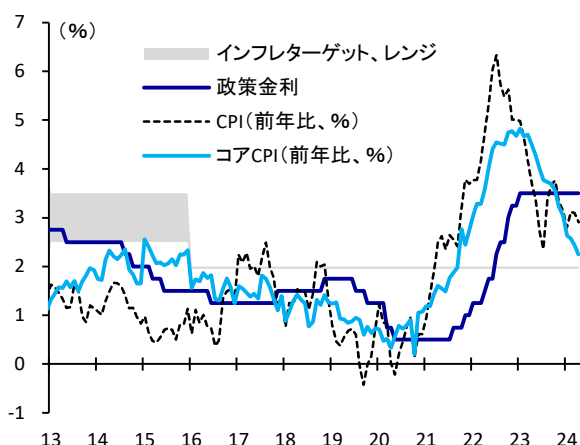
声明文では、前回同様、世界経済の緩やかな成長は継続する一方で、インフレ鈍化も進展しているとしながら、そのペースは一様でない点を指摘。国内経済について、BOK は経済見通しを更新した(図表 2、3)。前回会合時に今年の GDP 成長率が従来予想の前年比+2.1%を上振れる可能性を示唆していたが、今回は同+2.5%に引き上げた。特に半導体をはじめ、輸出関連業種の持ち直しが想定よりも早いペースで進んでおり、上半期の貿易収支に関してもまとまった幅で上方修正された。年間では 700 億ドルに達する見込みで、前年との比較では 2 倍以上に膨れ上がる計算になる。今後の半導体市況次第では更なる上方修正も期待できるが、資源価格の変動には警戒したい。

物価動向について、直近の 4 月消費者物価指数(CPI)は前年比+2.9%、農産品や石油類を除いたコア CPI は同+2.3%を記録(図表 4)。数字は総合・コアベースとも減速基調にあるが、短期のインフレ期待は+3.2%と現在の水準からは若干高く、BOK はインフレ長期化への警戒を解いていない。なお、BOK の予想はそれぞれ同+2.6%、同+2.2%と 2 月の数字に据え置かれた。先行きについては、不確実性が多く、中東情勢の悪化に伴う資源価格上昇や KRW 安に伴う全般的な輸入物価上昇、短期的な食料品価格の変動、景気回復に伴う物価上昇圧力の強まりをリスク要因に挙げた。

かかる中、BOK は現行の金利水準を保ち、物価目標の 2%収束を主導しながら、金融市場の安定性も維持する方針を示した。李 BOK 総裁の会見では、足許の景気回復に言及しつつも過熱している訳ではないと述べた。加えて、物価が目標水準に収束するのを待って利下げに着手することが望ましいとした。今回の決定は前回同様、委員会メンバーの全会一致での決定であったが、利下げに時期については不確実性が増していることが声明文にも記載されたが、輸入物価上昇をインフレリスクとして指摘している以上、為替の面でも利下げを前向きに検討はしにくいだろう。インフレ見通しが 24 年も+2%を上回ることも勘案して、本欄では引き続き利下げ着手は早くとも年後半以降と予想する。

会合後の KRW 相場の反応は限定的だったが、相場自体は米金利の方向感に上下する展開が続いている。先行きについては、昨年から大きく貿易収支の改善が見込める状況下、FRB が利下げを本格検討する局面において KRW は持ち直しを見込むが、米国の利下げも後ろ倒しになっているのも事実であり、それまでは一進一退の値動きが続きそうだ。

図表 1: 政策金利とインフレ率



出所: BOK、CEIC、みずほ銀行

図表 2: BOK 経済見通し①

	2023年 (前年比)	2024年		2025年	
		通年	上半期	下半期	通年
実質GDP成長率	1.4%	2.9%	2.2%	2.5%	2.1%
民間最終消費支出	1.8%	1.4%	2.2%	1.8%	2.3%
設備投資	0.5%	1.2%	5.7%	3.5%	3.9%
知的財産投資	1.6%	2.2%	2.6%	2.4%	3.3%
建設投資	1.4%	-1.1%	-2.7%	-2.0%	-1.1%
輸出(財)	2.9%	7.0%	3.4%	5.1%	3.0%
輸入(財)	-0.6%	-0.8%	5.6%	2.4%	3.1%
消費者物価指数(CPI)	3.6%	2.9%	2.4%	2.6%	2.1%

(数値は全て前年比)

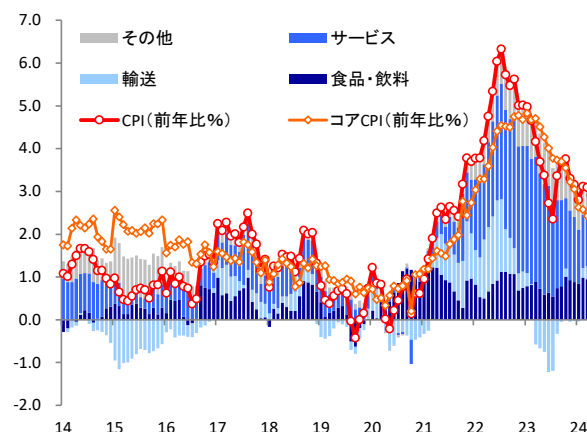
出所: BOK、みずほ銀行

図表 3: BOK 経済見通し②

	2023年 (10億ドル)	2024年		2025年	
		通年	上半期	下半期	通年
経常収支 (2月時点)	35.5	27.9	32.1	60.0	61.0
貿易収支(財) (2月時点)	25.4	36.0	34.7	70.7	79.6
サービス収支 (2月時点)	-23.6	-12.3	-12.5	-24.8	-31.6
所得収支 (2月時点)	28.2	4.2	9.9	14.1	13.0

出所: BOK、みずほ銀行

図表 4: 消費者物価指数の推移(前年比%、%ポイント)



出所: CEIC、みずほ銀行

市場概観(インド)

米大手格付機関がインドの外貨建て長期債務の格付見通しを上方修正

金融市場部
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

5月29日、米大手格付機関 S&P Global は、インドの外貨建て長期債務の格付見通しに関し、従来の「安定的」から「ポジティブ」に変更した。なお、格付そのものは「BBB-」で据え置かれており、投資適格級では最も低い格付となっている。大手格付会社 3 社からの評価を比較すると、いずれも格付は同等水準ではあるものの、見通しは今回の決定で S&P Global が一歩前に踏み出した格好である。本欄では、S&P Global の公表資料を基に、格付見直し変更のレビューおよびインド金融市場への影響度を簡単に説明したい。

公表資料の冒頭、「Overview」を確認すると、決定の土台となるインド経済に対する評価は以下の通りである。(1) 健全な経済基盤に支えられた力強い成長、(2) 経済政策と財政政策の継続性、(3) インフラ支出の増加とそれによる成長率の押し上げ、(4) 財政再建に対するコミットメント、の 4 点に集約される。なお、インドでは現在総選挙が行われており、6 月初旬には集計が開始され大勢が判明する見込みだが、S&P Global は「選挙の結果に関わらず、経済政策と財政政策は幅広く継続すると予測する」としており、それほど選挙結果を重要視していないようだ。そもそも、世論調査に基づけば、与党の勝利とモディ首相の 3 期目突入が高い確度で見込まれており、S&P Global としてもそのような前提を置いていると考えてよいだろう。

上記のうち、(1)に関しては、人口の伸び、そして人口動態などを背景に、「中国の次の世界経済のけん引役」として高い期待を受けていることは、本邦でも度々報道されている。国際通貨基金(IMF)も、4 月に公表した世界経済見通し(WEO)において、24 年度の実質 GDP 成長率見通しに関し、1 月時点の+6.5%(前年比、以下同様)から+6.8%へ+0.3%ポイント上方修正している。他方、(2)～(4)に関しては、2 月に示された本年度の暫定予算案を受けた評価だろう(*)。同暫定予算案で市場の注目を集めたのは、24 年度の財政赤字見通しに関し、5.1%(GDP 対比)と設定されたことだ。ブルームバーグが事前に調査したコンセンサスでは、5.3%となっていたことから、債券市場にとっては良いサプライズとなったことも記憶に新しい。シタラマン・財務相は暫定予算案公表のプレゼンにおいて、モディ首相の功績をたたえとともに、インフラ支出などを通して貧困層、農民民などへの支援を前面に押し出している経緯もあった。

市場への影響としては、公表直後に小幅ながら金利低下(債券価格上昇)、そして INR 高で反応したことからもわかる通り、基本的にポジティブだ。上述の通り総選挙開催期間中で、インド金融市場もやや神経質な展開が目立っていたこともあり、平時であればより大きな好材料として市場で消化された可能性もある。なお、短期間のうちに格付そのものが引き上がるとは想定していないが、上述の暫定予算案で示された通りに財政赤字が圧縮され、加えてインフラ支出が実行されれば、今後 2 年のうちに格付引き上げも十分に射程圏内に入る。

*詳細は、2024 年 2 月 2 日発行の通貨ニュース、『インド: 来年度暫定予算案公表を受けて～財政赤字縮小へ意欲を示す～』をご覧ください。

市場概観(メキシコ)

Banxico は 24 年の成長率見通しを下方修正

金融市場部
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

メキシコ中央銀行(Banxico)は 29 日、四半期報告書を公表した。なお、今回の報告書は、2024 年 1～3 月期を対象としている。本欄では、報告書の内容を簡単に分析するとともに、Banxico の金融政策の先行きについて論じたい。

まず、今回の報告書の内容で最も注目を集めたのは、GDP 成長率見通しの引き下げだろう。今回の見通しは、2024 年～25 年に関し、それぞれ+2.4%、+1.5% (前年比、以下同様)となっている(図表 1)。前回 2 月時点と比較すると、2024 年が▲0.4%ポイント下方修正されている。Banxico はこれを、2023 年 10～12 月期から 2024 年 1～3 月期にかけての成長率が低迷したことを反映した、と説明している。実際、1～3 月期の成長率を確認すると、+1.6% (確報)と市場予想(速報時点)の+2.3%大きく下回った(図表 2)。前年比でみると、10～12 月期の+2.5%から減速した。先行きに関しては、民間消費と投資の底入れを受け成長率は持ち直すものの、年後半に関しては、メキシコ大統領選挙後に予想される政府支出の減少などを受け成長はより緩やかになる、と指摘した。2025 年に関しては、内需の落ち込みと外需の持ち直しが交差すると予想される中で、年間の成長率はさらに鈍化するパスが描かれている。需給ギャップも、「2025 年末までにゼロに近い水準まで低下」と予想しているようだ。

なお、インフレの見通しに関しては、5 月 9 日開催の金融政策決定会合時点の予測から変化はない(図表 3)。高水準の実質政策金利が続く中でも、サービス分野の粘着性は継続し、2025 年の 10～12 月期に Banxico の目標レンジ(前年比+3%±1%)の中心によりやく回帰するとの見通しだ。また、コアインフレの粘着性や通貨安に加え、気候要因や地政学的要因に伴う食料・エネルギー価格高騰など、インフレのリスクバランスが上方に傾いていることを強調しており、警戒姿勢を解除したわけではない。

かかる中、市場が最も注目するのは、今後の利下げペースだろう。Banxico は 9 日に開催した金融政策決定会合で、政策金利(翌日物金利)を 11.00%で据え置くことを全会一致で決定した(*)。前回 3 月会合で 3 年ぶりの利下げを実施したが、早くも利下げの「スキップ」を選択した格好である。23 日には、5 月会合の議事要旨が公表されているが、1 名の理事はコアインフレの改善がなければ、次回 6 月会合での利下げも見送るべきと主張するなど、全体的にタカ派的な内容が目立った。もっとも、長い目で見た際のデysinフレを重視し、6 月会合での利下げに前向きな姿勢を示す理事も存在した。6 月会合での利下げ判断は、それまでに公表される 5 月分、および 6 月前半分の消費者物価指数(CPI)の結果を踏まえたものになるだろうが、評決は分かれる可能性が高いと見ておきたい。

Banxico は、政策金利に関し、民間調査における 12 か月先の期待インフレ率を引いたものを「短期実質政策金利」とし、これの均衡水準を「中立実質政策金利」としている。なお、Banxico は中立実質政策金利を+1.8%～+3.4% (中心は+2.6%)と考えている(図表 4)。足許では若干低下しているとはいえ、依然+7.0%を上回っており、金融環境は十二分に引き締めると評価できる。インフレ目標を上回る物価上昇が長らく定着してしまったことを考えると、2024 年に関しても、短期実質政策金利は十分に引き締めめである必要がありそうだ。今回の報告書においても、金融政策のスタンスは 5 月会合時点から変わっておらず、利下げの確約はしていない。とはいえ、利下

げ余地そのものはあると考えており、12 か月先の期待インフレ率はおおむね+3.5%～+5.5%程度で推移してきたことも併せて考えれば、本年末の政策金利の着地点は9.75%～10.25%程度が妥当と予想している（現行は 11.00%）。

*詳細は、5 月 10 日発行の通貨ニュース、『メキシコ：インフレ見通しを大きく上方修正した上で利下げの「一時停止」を決定』をご覧ください。

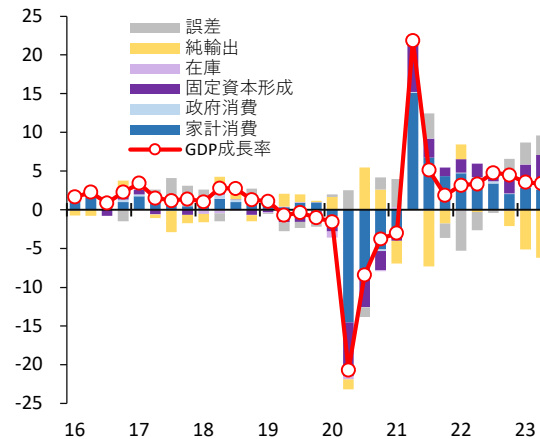
図表 1: Banxico の GDP 成長率見通し

GDP成長率見通し				
		2023	2024	2025
2024年	5月時点	3.2%	2.4%	1.5%
	2月時点	3.2%	2.8%	1.5%
2023年	11月時点	3.3%	3.0%	1.5%
	8月時点	3.0%	2.1%	-
	5月時点	2.3%	1.6%	-
	3月時点	1.6%	1.8%	-

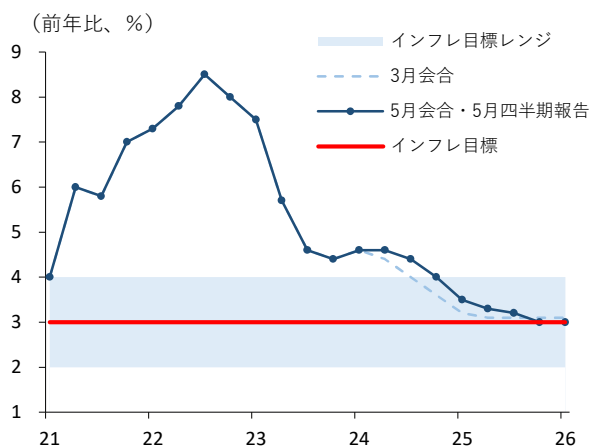
※前年比、%

※見通しの中央値を記載

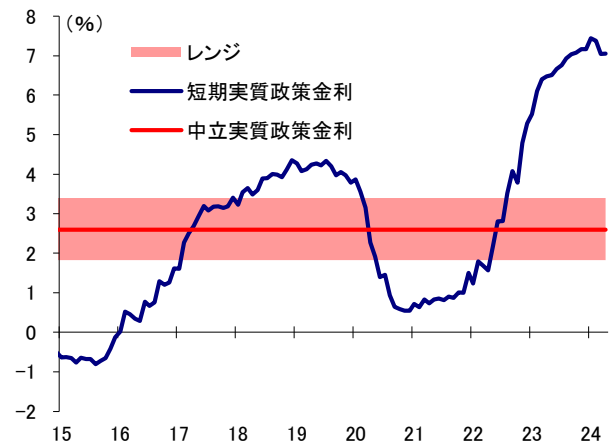
出所: Banxico、みずほ銀行

図表 2: GDP 成長率の実績(前年比%、%ポイント)


出所: Bloomberg、みずほ銀行 ※1～3 月期は成長率のみ

図表 3: Banxico の CPI 見通し(総合ベース)


出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 4: Banxico の想定する中立実質政策金利


出所: Macrobond、みずほ銀行

市場概観(インド)

RBI は為替介入を強化する方針を示す

金融市場部
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

インド準備銀行(RBI)は 30 日、23-24 年度における年次報告書を公表した。報告書内で注目を集めたのは、6 月にインド国債の新興市場債券指数への組み入れを控える中、予想される為替市場のボラティリティを抑制すべく、為替介入のツールキットを強化する、といった方針が示されたことだ。指数組み入れに関しては本欄で度々詳細に言及してきたため、下記では細かくは補記しないが、指数組み入れを受け 200~250 億ドルの資金がインド国債に振り分けられると見込まれている。組み入れの前に、既に海外投資家のインド国債購入が目立っていることも既報の通りだ(図表 1)。

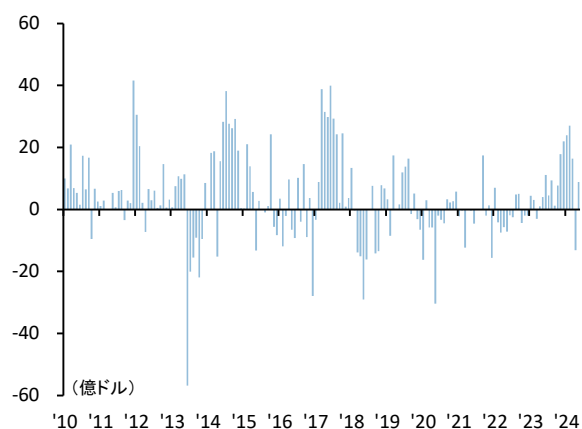
RBI は、為替介入の強化に関し具体的な手法は述べておらず、「INR の秩序ある動きを確保するという目的によって行われる」とするに留めている。筆者としては、わざわざ今回 RBI がこのような声明を出したことに驚きを感じている。というのも、RBI は既に強力な為替介入を行っており、実際に INR の値動きは不自然なまでに抑制されている(図表 2)。為替介入の方向感も一様ではなく、明らかに「やりすぎ」な印象は否定できない。国際通貨基金(IMF)も、2023 年 12 月に公表した「4 条協議」において、インドの為替制度を「フロート制」から「安定化制度」に再分類したことを表明した。これに関し RBI は反発しており、IMF の見解を「不正確」と非難している。

このように、IMF により厳しい目も向けられている中での今回の年次報告書公表だったので、わざわざ「為替介入を強化する」と述べる必要があったのか、疑問が残る。当然ながら、海外資金の流入に伴う為替変動リスクを懸念しているのは明白であるが、RBI 自身も報告書内で「インド国債全体に占める海外投資家の保有割合は小さいため、変動は限定的となるはずだ」とも指摘している。であれば、尚更為替介入を強調する必要性には乏しかったように思える。今後、IMF などの国際機関がどのような反応を見せるか、注視していきたい。

なお、今回の年次報告書では、INR の国際化を促進するための措置も複数記載されている。具体的には、インド国内の銀行による海外居住者への INR 建てでの貸付や、インド国外における INR 口座の開設などを可能にする、と表明している。INR の国際化に関しては、RBI からもその意思は断続的に確認されていたので、一步前進した格好だろう。一部の国との間では、貿易取引で INR 建てなどが用いられているものの、特に投資の観点では INR が国際的な通貨とは言えないのが現状である。INR の国際化に関しても、今後定期的に観測していきたい話題である。

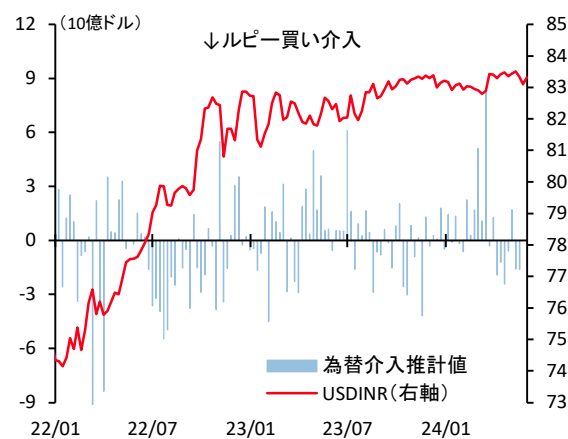
いずれにしても、INR 相場の先行きは、RBI による為替介入の強弱の程度次第としか言いようがない時間帯が続いており、見通し作成にあたっては頭を悩ませる状態が続いてしまいそうだ。今回の年次報告書は、その状態をさらに強化したと判断している。

図表 1: 海外投資家による債券市場への資金流入動向



出所: ブルームバーク、みずほ銀行 ※プラスは資金流入

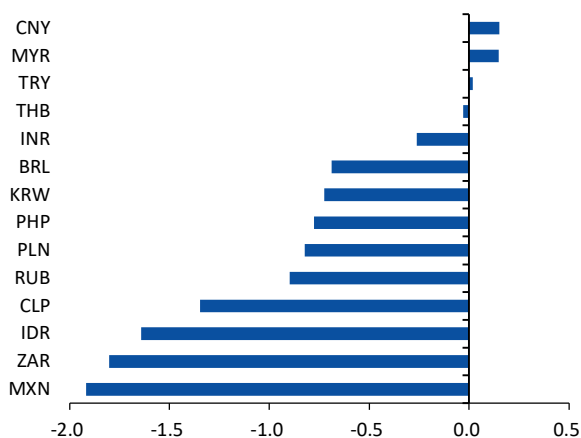
図表 2: RBI の為替介入推計値と INR 相場



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

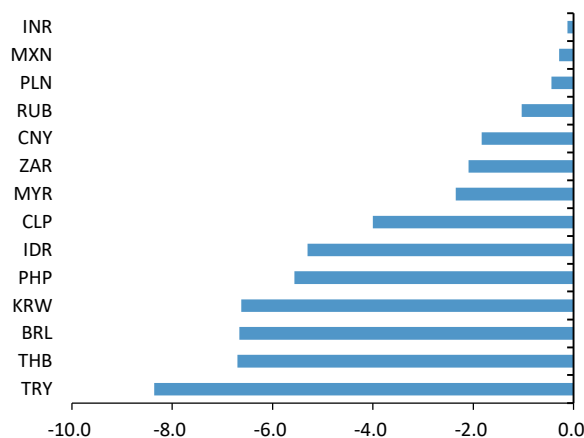
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



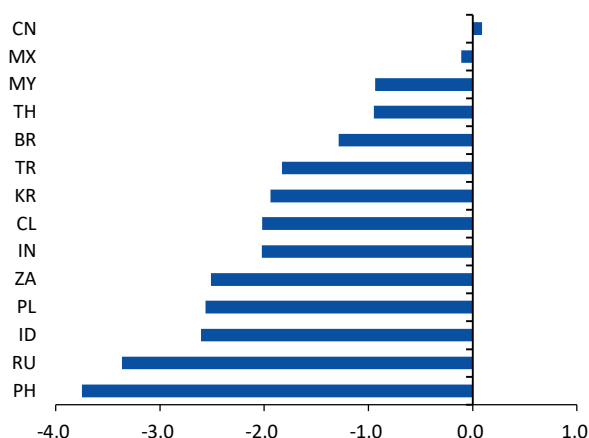
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



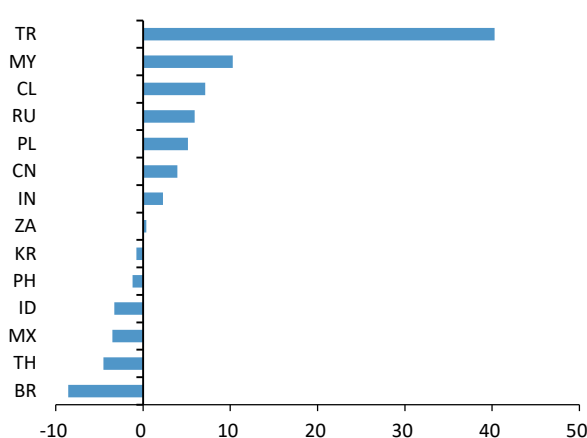
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



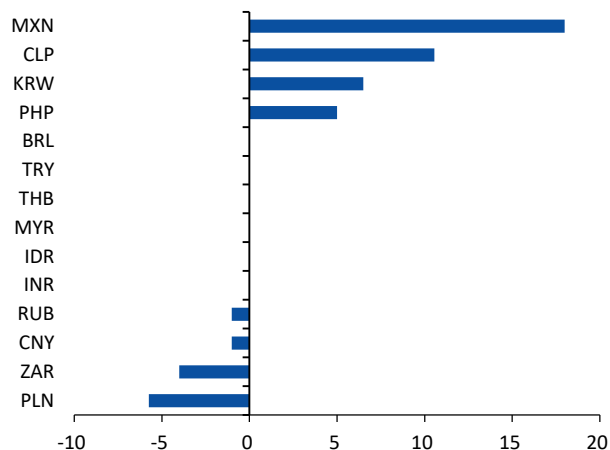
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

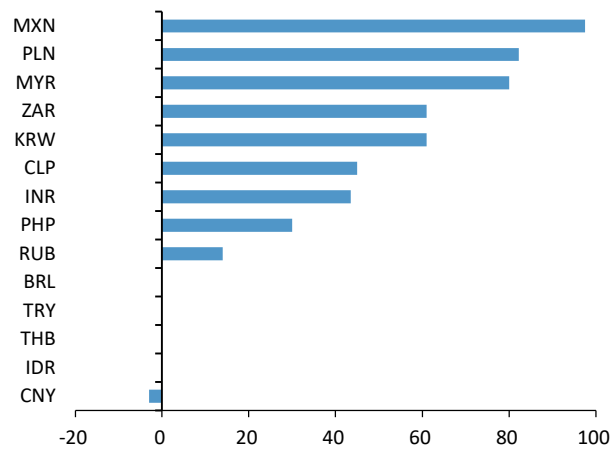
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

5 年物スワップレート年初来変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

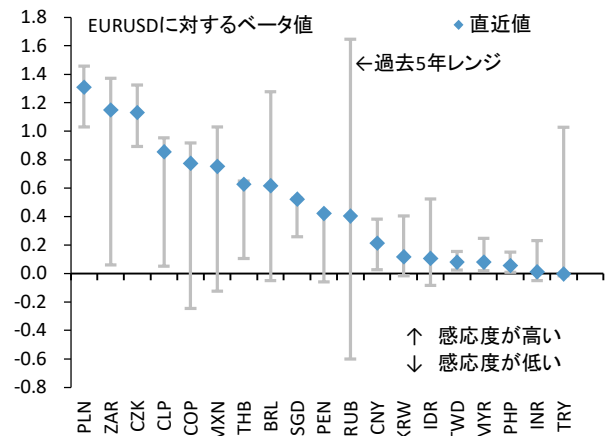
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

チャート集

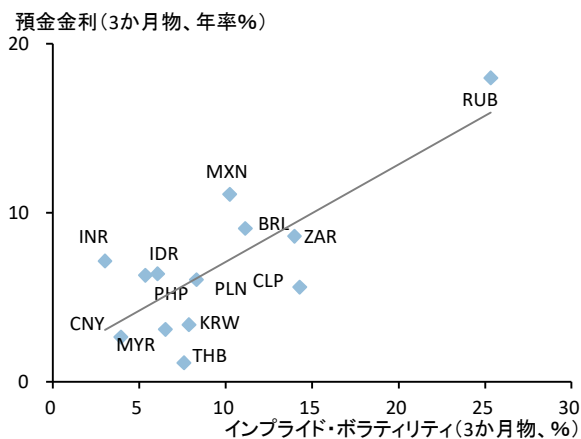
主要新興国への証券投資(4 週間移動平均)



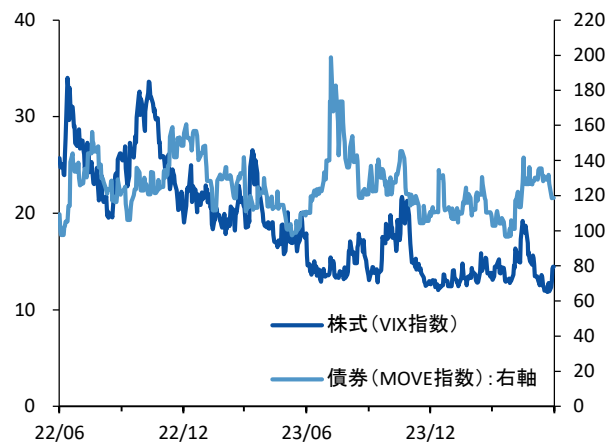
EM 通貨(対ドル)の EURUSD に対する感応度(過去 12 か月)



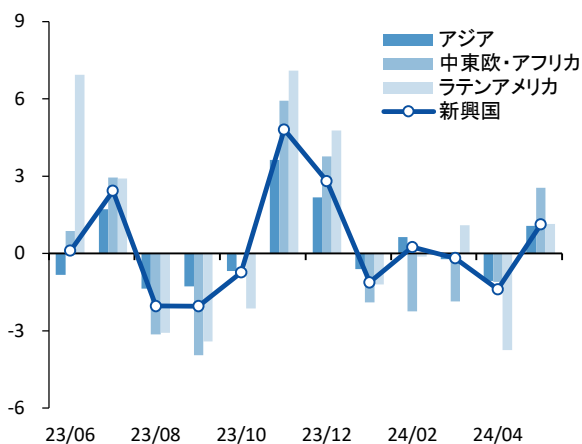
新興国の預金金利と為替ボラティリティ



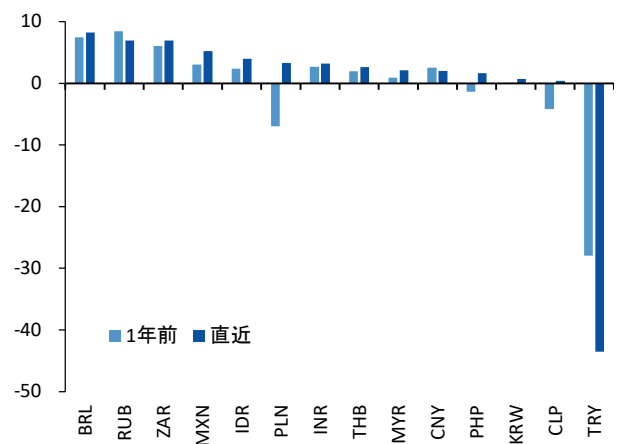
株式と債券のボラティリティ(VIX 指数、MOVE 指数)



新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



実質金利(10 年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
5月27日 (月)	中国	工業企業利益(前年比)	--	4.0%	-3.5%	--
30日 (木)	台湾	GDP(前年比)	6.5%	6.6%	6.5%	--
31日 (金)	韓国	鉱工業生産(前年比)	4.4%	--	0.7%	--
31日 (金)	中国	製造業PMI	50.4	--	50.4	--
31日 (金)	中国	非製造業PMI	51.5	--	51.2	--
31日 (金)	タイ	国際収支:経常収支	\$450m	--	\$1082m	--
31日 (金)	インド	GDP(前年比)	6.9%	--	8.4%	--
6月1日 (土)	韓国	貿易収支	\$4200m	--	\$1500m	\$1529m
3日 (月)	中国	Caixin中国製造業PMI	51.6	--	51.4	--
3日 (月)	インドネシア	CPI(前年比)	--	--	3.0%	--
3日 (月)	シンガポール	購買部景気指数	--	--	50.5	--
4日 (火)	韓国	CPI(前年比)	--	--	2.9%	--
5日 (水)	韓国	GDP(前年比)	--	--	3.4%	--
5日 (水)	フィリピン	CPI YoY 2018=100	--	--	3.8%	--
5日 (水)	タイ	CPI(前年比)	--	--	0.2%	--
5日 (水)	シンガポール	小売売上高(前年比)	--	--	2.7%	--
6日 (木)	台湾	CPI(前年比)	--	--	2.0%	--
7日 (金)	インド	RBI政策金利	--	--	6.50%	--
7日 (金)	台湾	貿易収支	--	--	\$6.46b	--
7日 (金)	中国	貿易収支	--	--	\$72.35b	--
中東欧・アフリカ						
5月27日 (月)	トルコ	製造業景況感指数(季調前)	--	105.4	106.1	--
27日 (月)	トルコ	設備稼働率	--	76.3%	76.7%	--
30日 (木)	ロシア	鉱工業生産(前年比)	4.0%	3.9%	4.0%	--
30日 (木)	トルコ	貿易収支	-9.90b	-9.86b	-7.34b	--
30日 (木)	南ア	PPI 前年比	5.0%	5.1%	4.6%	--
30日 (木)	南ア	SARB政策金利発表	8.25%	8.25%	8.25%	--
31日 (金)	トルコ	GDP(前年比)	5.8%	--	4.0%	--
31日 (金)	南ア	貿易収支(ラント)	9.3b	--	7.3b	--
6月3日 (月)	トルコ	CPI(前年比)	--	--	69.8%	--
3日 (月)	トルコ	PPI 前年比	--	--	55.7%	--
4日 (火)	南ア	GDP(前年比)	--	--	1.2%	--
6日 (木)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	--	--	11.1%	--
6日 (木)	南ア	経常収支(対GDP比)	--	--	-2.3%	--
6日 (木)	南ア	経常収支	--	--	-166b	--
7日 (金)	ロシア	主要金利	--	--	16.0%	--
ラテンアメリカ						
5月27日 (月)	ブラジル	融資残高	--	5894b	5873b	--
28日 (火)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	3.7%	3.7%	3.8%	--
31日 (金)	ブラジル	純債務対GDP比	61.0%	61.2%	61.1%	--
6月4日 (火)	メキシコ	送金総額	--	--	\$5020.7m	--
4日 (火)	ブラジル	GDP(前年比)	--	--	2.1%	--
4日 (火)	メキシコ	総設備投資(季調前、前年比)	--	--	12.5%	--
5日 (水)	ブラジル	鉱工業生産(前年比)	--	--	-2.8%	--
7日 (金)	ブラジル	貿易収支(月次)	--	--	\$9041m	--
7日 (金)	メキシコ	CPI(前年比)	--	--	4.7%	--

注: 2024 年 5 月 31 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

	2024年 1～4月（実績）	SPOT	2024年 6月	9月	12月	2025年 3月	6月
対ドル							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	7.1040 ～ 7.2474	7.2327	7.25	7.20	7.15	7.10	7.05
香港ドル (HKD)	7.8048 ～ 7.8387	7.8173	7.82	7.80	7.80	7.78	7.77
インドルピー (INR)	82.649 ～ 83.575	83.315	84.5	82.8	84.0	82.2	80.9
インドネシアルピア (IDR)	15426 ～ 16290	16265	16000	15780	15900	15400	15200
韓国ウォン (KRW)	1290.39 ～ 1400.13	1379.37	1360	1340	1350	1330	1310
マレーシアリングギ (MYR)	4.5892 ～ 4.8053	4.7045	4.79	4.62	4.76	4.58	4.43
フィリピンペソ (PHP)	55.300 ～ 57.968	58.629	56.5	55.6	56.8	55.2	54.6
シンガポールドル (SGD)	1.3193 ～ 1.3670	1.3501	1.37	1.35	1.37	1.34	1.33
台湾ドル (TWD)	30.518 ～ 32.666	32.447	32.0	31.5	31.8	31.3	30.5
タイバーツ (THB)	34.11 ～ 37.20	36.70	36.3	35.2	36.2	35.0	34.5
ベトナムドン (VND)	24260 ～ 25463	25455	25200	24800	25200	24900	24700
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	87.4000 ～ 95.4670	90.2500	93.0	94.0	95.0	96.0	97.0
南アフリカランド (ZAR)	18.2639 ～ 19.3899	18.7463	18.9	19.1	19.2	19.3	19.4
トルコリラ (TRY)	29.6646 ～ 32.8170	32.2498	32.0	31.5	31.0	30.5	30.0
ラテンアメリカ							
ブラジルレアル (BRL)	4.8317 ～ 5.2866	5.2046	5.10	5.08	5.05	5.08	5.10
メキシコペソ (MXN)	16.2616 ～ 18.2137	17.0144	17.2	17.4	17.5	17.7	18.0
対円							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	19.830 ～ 22.066	21.658	21.79	21.67	22.24	22.82	23.26
香港ドル (HKD)	18.032 ～ 20.437	20.060	20.20	20.00	20.38	20.82	21.11
インドルピー (INR)	1.695 ～ 1.920	1.882	1.87	1.88	1.89	1.97	2.03
インドネシアルピア (100IDR)	0.913 ～ 0.984	0.964	0.988	0.989	1.000	1.052	1.079
韓国ウォン (100KRW)	10.820 ～ 11.550	11.369	11.62	11.64	11.78	12.18	12.52
マレーシアリングギ (MYR)	30.593 ～ 33.493	33.349	32.99	33.77	33.40	35.37	37.02
フィリピンペソ (PHP)	2.541 ～ 2.765	2.678	2.80	2.81	2.80	2.93	3.00
シンガポールドル (SGD)	106.65 ～ 117.51	116.16	115.75	115.90	116.48	121.35	123.31
台湾ドル (TWD)	4.576 ～ 4.894	4.833	4.94	4.95	5.00	5.18	5.38
タイバーツ (THB)	4.096 ～ 4.310	4.272	4.35	4.43	4.39	4.63	4.75
ベトナムドン (10000VND)	0.5807 ～ 0.6291	0.6161	0.63	0.63	0.63	0.65	0.66
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	1.552 ～ 1.739	1.738	1.70	1.66	1.67	1.69	1.69
南アフリカランド (ZAR)	7.588 ～ 8.498	8.364	8.36	8.17	8.28	8.39	8.45
トルコリラ (TRY)	4.538 ～ 4.945	4.851	4.94	4.95	5.13	5.31	5.47
ラテンアメリカ							
ブラジルレアル (BRL)	28.829 ～ 31.200	30.136	30.98	30.71	31.49	31.89	32.16
メキシコペソ (MXN)	8.297 ～ 9.341	9.218	9.19	8.97	9.09	9.15	9.11

注: 1. 実績の欄は 2024 年 4 月 30 日まで。SPOT は 5 月 31 日の 7 時 10 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。